



特集

企業が求める、学校が考える、 グローバル人材とは



■ 特集

- IIBC 専務理事 斎藤 真 インタビュー P2
- [企業編] P4
- [大学編] P10
- IIBC エッセイコンテスト P12
- IIBC AWARD OF EXCELLENCE P14
- IIBC TOPICS P17

「対話力」と「対応力」で境界を越えていく これから求められる グローバル人材の姿

IIBCは「人と企業の国際化の推進」に貢献し続けるという基本理念のもと、「TOEIC事業」、「グローバル人材育成事業」という2つの柱となる事業を推進しています。IIBCでは、グローバル人材が標準装備すべきスキルとリテラシーとして、「**個としての軸**」「**決断力**」「**戦略・ビジネスモデル創出力**」「**多様性活用力**」「**異文化理解力**」「**コミュニケーション力**」の6つを想定し、探求しています。

不確実性が増す世界情勢の中、グローバルリーダーにはこの6つに加えてさらに新たな資質が求められるのではないかとIIBCの考えるグローバル人材について、専務理事の斎藤真が語りました。



IIBC専務理事

斎藤 真

グローバル人材には欠かせない英語能力を測定・評価するTOEIC®事業

IIBCが取り組むひとつ目の柱が、テスト事業である「TOEIC® Program」です。TOEIC Programのスコアは、英語のコミュニケーション能力を客観的に評価するために広く活用されています。テストでは、どうしても点数そのものに目が行きがちですが、テストを通じて英語能力を向上させ、その結果、将来の自分の人生の選択肢が増えるよう活用していただきたい、というのがテスト事業の真のねらいとしているところです。

また、企業や学校でのTOEIC Programの活用事例をご紹介します。

TOEICセミナーや、受験者の方に学習方法を学んでいただくためのイベント等を定期的に開催することで、よりTOEIC Programにご理解いただく活動も積極的に行っています。

さらに、英語能力の育成支援に加え、高校生のための英語によるエッセイコンテストや、国際的なスポーツ大会への学生ボランティア派遣も実施しており、未来のグローバルリーダーの異文化理解を後押しし、発信力を鍛えながら多様性に向き合う姿勢を育成する機会と場の提供を行っています。

リーダーシップにフォーカスするIIBCのグローバル人材育成事業

もうひとつの柱が「グローバル人材育成事業」です。我々のミッションである「人と企業の国際化の推進」において重要な位置を占めていると考えています。グローバル人材とは、「国境だけでなくさまざまな境界を越えて外に出ていく人」と私は定義しています。グローバル・アリーナで世界のリーダーとして活躍する人材の育成を支援していきたくと考えています。

「リーダーシップ」にフォーカスする理由は、境界を越えて活躍する日本人が増えたにもかかわらず、残念ながらグローバル企業や国際機関等においてリーダーとして活躍されている人の数がまだまだ少ないと感じているからです。

2000年に創刊された「Global Manager」は、世界での活躍を目指す方々向けに、グローバルに活躍するための情報を、さまざまな切り口からウェブ形式で提供しています。インタビューを

通じて、多種多様な業界で活躍している方々に、異文化への対応、コミュニケーション力の重要性、リーダーシップなどについて伺い、情報を発信しています。

一方で、経営者や人事・人材開発に携わる方など、グローバル人材を育成する方々向けの活動が「グローバル人材育成プロジェクト」です。中でも2012年から開催している「地球人財創出会議」は当協会の中心的なプロジェクトとして位置づけており、情報の発信だけではなく、グローバル人材育成に関する課題について、考え学び合う場として定期的に提供しています。

「地球人財創出会議」では、毎回、テーマを1つ決め、50名ほどの参加者にお集まりいただきます。ゲストスピーカーの講演を聞き、それに対してさまざまな意見を交わすインタラクティブセッションであることが特長です。

グローバル人材に重要な「対話力」

私自身は、これまでの経験から、グローバル人材が持つべき6つのスキルとリテラシーの中で、最も大切なのは「コミュニケーション力」、それも「会話」ではなく「対話」できる力だと考えています。言い換えると、単なる日常会話や指示ではなく、話をする相手の言葉の奥にある質問の意図、背景や文脈など、いわゆる「between the lines」も読めることです。

アメリカで足掛け22年、その後メキシコ現地法人の責任者として6年仕事をしましたが、メキシコのほうが、はるかに多様性に富んだ職場でした。現地には、白人であるスペイン系・フランス系メキシコ人もいれば、マヤ、アステカ系の先住民族の従業員もいます。アメリカから来た人もいます。宗教を見ても、ローマ・カトリック、

プロテスタント、イスラムもあればシャーマニズムの世界で生きている人もいますし、また貧富の差も大きい環境です。そういう人たちが部下であることが前提で仕事をしていました。異文化を呑みこまないと仕事が始まらないといっても過言ではありません。

いくら優秀な人でも、異文化や多様性に溶け込めない人もいます。「社会に溶け込む積極性」「フレキシビリティ」「好奇心」「その国を好きになる」「その国の人を好きになる」「その国に感謝する」そして最終的には「その国に貢献する」という気構えがなくては、異文化やダイバーシティが理解できたとしても、決断力に勝っているとしても、残念ながらリーダーとしては機能しません。

そのような環境の中でリーダーとなるために重要なのが「対話力」です。なぜこのプロジェクトや商談を推進するのか、その目的・背景、論理、意義を説明し、そのメッセージを相手がどのような気持ちで受け取っているのか、双方向で理解を深める対話には共通言語が必要です。そのためには、英語能力の高さが当然のごとく求められます。

「英語はたどたどしくても意思があれば伝わる。単語を並べれば通じる」という人もいます。ある意味、それは間違いではありませんが、外国人と対等に向き合うためには、英語能力はある程度高くなくては対話はできません。ネイティブスピーカーのように話せずとも、つたない英語よりは高度な言葉が使えるほうが、相互理解力が高まります。英語をブラッシュアップする上で、TOEIC Programを上手に活用していただければと思います。



地球人財創出会議の様子

世界の変化への「対応力」

グローバル人材が標準装備すべき6つのスキルとリテラシーのうちコミュニケーション力についてご紹介しましたが、昨今の世界情勢を見ると、これだけでは十分でなくなっているように感じます。2016年の英国のEU離脱、そして米国のトランプ大統領誕生など、グローバリズムに変化が生じています。グローバル人材には、従来の6つのスキルとリテラシーに加え、「変化への対応力」がなくては世界の大きな土俵ではやっていけないのではないのでしょうか。「変化への対応力」は、すなわち情報収集力でもあります。

世の中はどうなっていくのか、また地域がどう進化していくのかを予測し、変化への対応ができるフレキシビリティを持つことが大切です。私のメキシコでの生活は、毎日が不確実で、新しい発見がある、わくわくする世界でしたが、6年いてもその本質は分からないままでした。でもそれが楽しかったのです。予測できない世界をナビゲートしていくフレキシビリティは「変化への対応力」の根幹ともいえます。この7つ目の要素は、現代のグローバル・アーリーナ、特に我々が今直面している世界環境において、重要度が今後さらに増していくと考えます。

グローバル人材になる過程で、TOEIC Programは役に立つ道具になるでしょう。TOEIC Programを通して英語力を身につける

ことが皆様の人生の選択肢を広げることにつながればいいなと思っています。会社や学校に言われたから受験するのではなく、就職、転職、海外勤務、留学など、さまざまな場面でTOEIC Programのスコアがパスポートとなって、自分の進みたい道が開けてくる、そのような人々を後押ししたい、というのが私の希望です。

また、「国境だけでなくさまざまな境界を越えて外に出ていく人」というグローバル人材の定義に立ち戻れば、海外から日本に来る留学生を含む外国人もまた、「自分の境界を越えて外に出てきた人」です。そして、彼らに向き合う方々もまた、グローバル人材であるほうが望ましいでしょう。訪日外国人に対する日本人の対応力を高めるという取り組みを政府が行っていますが、我々としても、国内で活躍するグローバル人材も積極的に支援していきたいと考えています。





—— 企業担当者、採用のプロに聞く —— 企業が求めるグローバル人材とは



人と企業の国際化が進む中、多くの企業がグローバル人材を求めています。しかし、実際に求められる「グローバル人材」とはどのようなものなのでしょうか。

実際にグローバル人材の育成と活用に取り組む企業の中から、世界中を市場として自社製品を届けるアステラス製薬株式会社、国境のない金融市場でサービスを展開する三菱UFJ信託銀行株式会社、そして世界中から来日するお客様をおもてなしするホテルニューオータニを運営する株式会社ニュー・オータニと、タイプの異なる3社に、自社でのグローバル人材育成の取り組みと、求める人材像についてうかがいました。

また、グローバル人材の採用を求める国内外の企業とバイリンガル人材のマッチングに取り組む株式会社ディスコの米国法人責任者へのインタビューと調査報告書から、採用の現場から見た企業のニーズと海外留学生の意識を読み解きます。

TOEIC® TestsはTOEIC® Listening & Reading Test、TOEIC® Speaking & Writing Testsの総称です。

違いを包含する「多様性」の理解が、 新たなものを生む

アステラス製薬株式会社

開発本部 開発推進部長 渡辺 勇太 氏



「世界中に薬を届けたい」思いで、変化を乗り越えた

アステラスの経営理念は「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」です。その中における開発本部の主な役割は、世界の人々に迅速に医薬品を届けるために、各国の薬事行政の規制に則り、開発戦略の立案、臨床試験の計画と実施を行い、薬事承認を得ることです。

開発本部では、2008年にグローバル開発機能本社を設立、また2009年には、プロジェクトごとにチームを編成し開発を推進するグローバル開発体制へ変更しました。この変更は、迅速かつ的確な意思決定を可能とする最適なマネジメント体制を構築することによる、新薬開発スピードの向上を目的としています。具体的には、各疾患領域において、医学・サイエンスなど必要な専門性を持つリーダー（プロジェクトリーダー）のもと、国をまたがるチーム（グローバル・プロジェクト・チーム）を編成し業務にあたることとなりました。そのため、当然のことながらチームの共通言語として英語を使用することになり、この急激な環境変化に対応するために私たちは大きく変化することを求められました。

TOEIC® Testsの実施で英語力向上を後押し

医薬品業界に限りませんが、世界のビジネスの不確実性が高まるにつれ、自ら考え、意思決定できるよう成長していく重要性は益々高まっています。そのため開発本部においては、チーム内、あるいは社外のパートナーと対等に議論し、的確な開発業務を行うためのコミュニケーションに必要な英語力を養うことが求められています。



そのような背景を踏まえ、私たち開発本部では、本社や人事部門とも連携して、2010年から様々な英語研修を企画・実施してきました。そして、英語力向上を評価することを目的として、TOEIC Testsを社内でする機会を開発本部独自で設けました。現在では、TOEIC L&Rを年4回、TOEIC S&Wを年1回

実施しています。受験は任意ですが、年間延べ約390名（2016年度実績）が受験しており、希望者はTOEICスコアを人事情報に登録することができます。

自分の成長のモノサシとなるTOEIC Testsを通じて、社員自身が英語力の重要性に改めて気づき、目標をもって英語力向上に取り組み始めていることを実感しています。それにより、グローバル化に対するマインドセットも大きく変化してきました。

専門知識を前提にした相互理解能力が必要

アステラスでは抗がん剤や泌尿器疾患治療薬を中心にグローバル展開を進め、現在では世界約70か国で医薬品を販売しています。現在では年間売上金額の6割以上、社員数も約6割が海外という、グローバルでの相互理解の必要性を肌で感じざるを得ない環境となりました。この状況下で、「相手の言うことを理解し、前に進める」という姿勢は数値尺度で測れるものではありませんが、着実に浸透していると感じています。

医薬品開発の業務に携わるには、専門的な医学・サイエンスの議論に堪えられる情報や知識が必要です。グローバル人材として活躍するには、それらの情報・知識に加えて、相手を理解する能力や自分の考えを伝えるための言語力、さらには、議論するための強いマインドセットが備わっている必要があることを、私たちはこれまでの自身の活動を振り返ることにより、改めて認識しています。

「多様性」を理解し自己実現する人材へ

「グローバル」という言葉には、地域の違い、言語の違い、人種の違い等という軸もあると思いますが、今、必要だと感じるのはいずれを包含する「多様性」という概念です。グローバル人材には「多様性」、つまり、違いを相互に理解した上で、新たなものを生み出すために協働し、自己実現することが一番求められます。それはすなわち、「不確実性の高い変化の激しい社会で、必要な情報を収集分析し、自分自身が意思決定し、人生を歩める人」なのだと私は思います。

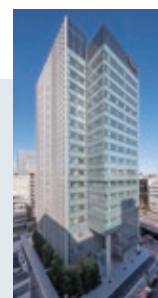
アステラス製薬株式会社

本社所在地：東京都中央区日本橋本町2-5-1

創業：1923年

従業員数：17,217名（2016年3月31日現在、連結ベース）

従業員構成：日本41.0%、欧州・中東・アフリカ27.4%、米州17.8%、アジア・オセアニア13.8%（2016年3月31日現在）



時代の変革や多様化に対応できる グローバル人材が求められている

三菱UFJ信託銀行株式会社

人事部企画グループ 課長
外岡 洋介 氏

人事部企画グループ 主任調査役
西村 通芳 氏



急激に成長するグローバル領域の事業



外岡氏：当社の主力業務の一つに、お客様の資産をお預かりし、その運用・管理を行う受託財産業務があります。我々は近年、受託財産業務の中でも特にグローバル領域を成長分野ととらえ、「グローバルAM（アセットマネジメント：資産運用）」「グローバルIS（インベスターサービス：資産管理）」の2つの事業に注力しております。現在ではグローバルAMの出資提携先は英国や豪州、中国に拡大し、さらにグローバルISの残高も340億米ドルから直近4年間で5,000億米ドルへと急速に伸ばしている状況にあり、当社としては今後ますます力を入れて積極的に取り組んでいきたい分野です。

国内でのシェア拡大も重要ですが、より大きな可能性が広がる海外のマーケットに進出していくことは、今後の当社の成長につながると感じています。こうした潮流のなかで、グローバルな舞台で活躍できる人材のニーズは今後ますます高まっていくことは間違いありません。

グローバル人材に必要な要件は 仕事をきちんと遂行できること



西村氏：グローバルに活躍できる人材の要件は、「英語ができること」はもちろんですが、それだけではありません。英語はあくまでも一つの基本的なスキル。仕事に必要なコミュニケーションをとるための道具ですから、それを使いこなして、いかに意義ある仕事を成し遂げられるかが最も大切です。また、単なる語学力だけではなく、異なる文化に対する高い理解力も求められます。当社では、そのような力を高めるためのさまざまな研修や支援を行っています。が、あくまでもそれは社員が自主的に学ぼうとする姿勢への手助けという位置づけです。

具体的には、業務で英語が必要な人材に一段ステップアップしてもらうためのグローバル教育と、社員全体の英語力底上げの2本柱で目的に合わせたサポートをしています。英語に関しては、①人事部が選抜した社員を対象にした社内英会話教室や、プレゼンテーションや交渉術といった業務内容に近いハイレベルな英会話レッスンと、②全社員を対象にしたTOEIC対策セミナーやオンライン英会話の費用補助などのサポートです。先般開催したTOEIC対策セミナーでは200人弱の定員が募集開始後2時間で埋まるほどの人気で、英語学習に対する社員の熱意を感じました。

今後はTOEIC L&R 900点を目指す講座や、本当に使える英語を目指してもらうためにTOEIC S&W受験費用の補助などを行い、急拡大するグローバル領域で活躍できる人材をますます増やしていきたいと考えています。

自ら改革し、グローバルな多様化に 対応できる人が求められる

西村氏：英語学習は短期間ではどうしても難しいので、若いうち、早いうちから業務に活かせる英語能力を身に付けてほしいと思います。私たちが求めるグローバル人材とは、異なる文化背景を持つ方たちとも良質なコミュニケーションをとり、当社の未来にとって有益な業務タスクを完遂できるような人。さらにこれからは、自ら改革し、グローバルな多様化に対応できる人材が求められるでしょう。

一方、業務の内容によって必要な英語のレベルは異なります。海外のお客様との商談や海外当局との折衝が必要な業務になれば、当然片言の英語では済まされませんが、Eメールなど社内のコミュニケーションができれば十分という社員も数多くいます。

英語を学ぶことで社員がさらに活躍できるよう、業務に求められる内容に応じてバリエーションを持たせながら、英語学習のサポートをしていきたいと思っています。

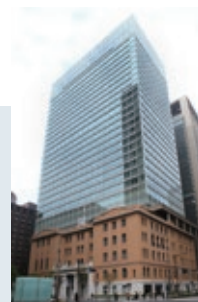
三菱UFJ信託銀行株式会社

本社所在地：東京都千代田区丸の内1丁目4番5号

創業：1927年

従業員数：6,963人（単体）／12,602人（連結）（2016年3月末）

海外支店・現地法人：海外赴任者 約150人 現地採用 約2,000人



「和の心」「語学力」「論理的思考」で 国内外のお客様を迎える

株式会社ニュー・オータニ

人事総務部 能力開発課 支配人 杉井 志帆 氏



「人を喜ばせるのが好き」という 人間性を持つ人財の上に英語力をつける

当ホテルは、海外からのお客様と国内のお客様のご利用が約半々となっております。世界中からお迎えするお客様と直接触れ合う職種の者がホテル全体の6割ほどおりますので、特に近年、英語力の底上げに尽力しています。

ホテルの仕事というと国際的なイメージが思い浮かぶ方も多いと思いますが、採用時には「TOEIC Testsのスコア何点以上」という基準はあえて設けておりません。それは、応募者の人間性や「人を喜ばせるのが好き」という、トレーニングでは鍛えることができない根幹を大切にしているからです。その根幹さえ持ち合わせていれば、英語力は社会人になってからでも十分に磨くことができると考えています。英語力向上のため、10年ほど前から年に2回TOEIC L&Rの受験機会を継続的に提供しており、昨年はTOEIC S&Wの受験機会も年に1回提供するようになりました。テストに備えて英語教材を紹介したり、勉強方法を伝えたりする取り組みも行っております。単に英会話レッスンをするだけでなく、定期的な効果測定によって社員が学び続けるモチベーションの維持に取り組んでおります。

TOEIC® Testsと社内英語検定試験の有機的な連携が、 英語力底上げに効果を発揮

英語が得意な社員の活躍が目立つ一方で、まだまだ苦手な社員も一定数いるのが現状です。外国語の習得は、一度逃げたり諦めたりするとアレルギーのようにとことん顔を背けたがる傾向が出てしまうものです。そのため、以前から社内でも実施していた独自の英語検定試験と、TOEIC Testsを連携させるようにしました。社内の英語検定試験は初級・中級・上級があり、基礎的な英語力を測ることができます。3年ほど前より、この社内検定試験で上級に合格した者には、次の目標としてTOEIC L&RやS&Wの受験を勧めるようにしました。

それぞれの学習領域において目標を設定し、達成するという成功体験を積み上げられる仕組みを作ったことで、テスト受験者はどちらも大幅に増加しました。それまで「英語以外の分野で活躍すれば英語はできなくてもいい」という雰囲気から、「ホテルパーソンである以上、英語はできてしかるべき。必須のものである」という共通認識が社内でも醸成されたのは間違いありません。社内検定試験制度とTOEIC Testsとの有機的な連携は、社員の英語力向上に、徐々に成果が現れてきています。

ホテルニューオータニが求めるグローバル人財の姿

ホテルニューオータニで働く人達は「ニューオータニズム」という行動傾向があります。これは明文化されたものではありませんが、とても「調和」を重んじて行動することを大切にしているものです。いわば「和の心」でしょうか。この心構えを大切にしつつ、国内外さまざまなお客様を迎える「グローバル人財」には「語学力」「問題解決能力」「タイムマネジメント能力」が大切だと考えています。

語学力については、英語はもちろん必須ですが、フランス語やスペイン語、中国語など第二外国語も学んでほしいと考えております。語学学習を通じて異文化や他国のトピックを知ることが業務上とても有効です。さらに、日々海外のお客様と接して感じるのは、論理的であることの大切さです。特に海外のお客様は論理的な回答を求められる傾向があり、語学力とともに論理的思考にもとづく「問題解決能力」が不可欠だと感じています。

加えて、時間の使い方が上手であることも重視しています。これは先に述べた語学力や問題解決能力を獲得するための学習時間を創出するためでもあり、仕事をする上でも重要な要素となります。

また、コミュニケーションの基礎として、美しい日本語の使い手になることも重要だと考えています。弊社ではこうした理想の「グローバル人財」を育てるために、文章作成能力テストを受験させる機会を設けるなどさまざまなサポートをしています。2020年、そしてその先に向けて、全社一丸となってこれらのスキルを磨き、自信を持って世界中からのお客様をお迎えしたいと考えています。

株式会社ニュー・オータニ

所在地：東京都千代田区紀尾井町4番1号

創業：1963年（「ホテルニューオータニ」開業は1964年9月）

従業員数：1,701名（2016年4月1日現在）うち6割が外国人客を含む接客にかかわる。



「採用のプロ」人材サービス企業から見た 目指すグローバル人材、求められるグローバル人材

DISCO International, Inc. President 兼
株式会社ディスコ 法人企画本部グローバル事業企画部 部長
秋本 浩児 氏

DISCO



人材採用コンサルティング事業を行う株式会社ディスコは、グローバル人材育成・採用サービスの一環として30年以上続く「ボストンキャリアフォーラム」を中心に、海外の大学および大学院を卒業（もしくは卒業予定）のバイリンガルを対象とした就職フェアを運営しています。グローバル人材を求める企業と海外留学生のマッチングを見てきた同社米国法人の秋本浩児氏に、米国における日本人の採用事情やグローバル人材市場のニーズについてお話をうかがいました。

米国内での就業に立ちはだかるビザの問題

米国内の日系企業や米系企業の日本関連部署などで日英バイリンガルのニーズは一定数ありますが、現在の米国で日本人をはじめとする米国外からの留学生が就職しようとして直面するのが、年々厳しくなっている就労ビザの取得です。今や外国人が米国の大学で学士号を取得しても、就労のために必要な専門職ビザ（H1B）の申請は4分の3が無条件に抽選で落とされてしまいます。米国で働けるかどうかは、能力とは別の問題が大きく左右するのが現実です。

困難な状況下において、在米企業は様々な方法で優秀な人材を確保しようと策を講じています。OPT※を持つ人を1年の期限付きで雇用する、あるいはOPT就労者を1年経ったら日本に帰国させて研修の後、あらためて駐在用のビザを取得して米国に呼び戻すといった工夫がされています。留学生のほうも厳しい状況は理解していて、就労ビザを狙いつつ、グローバルでも事業を行っている日本企業に就職して海外に出るチャンスをうかがうようになっています。

※Optional Practical Training: 専攻する学術領域に限り大学卒業後に1年間の就労が認められるビザ

人材に求められる能力は語学力から専門性、そして即戦力へ変化

第1回ボストンキャリアフォーラムが開催された1987年から今年で30年になりますが、海外留学生に対する企業の採用ニーズも移り変わっています。最初の10年は、バブルも相まって日本企業が世界に目を向け始め、「国際派」の「英語ができる人材」である海外留学生を採用するようになったことです。一方外資系企業では、日本進出のために必要な人材として日英バイリンガルの経験者採用に重きをおく傾向にありました。



1990年代後半～2000年代前半の10年は、専門性重視の時代です。日本企業の海外進出が進み、人材の目的が明確化してきたことから、語学力だけではなく、専門性を持ち、人柄などもしっかり見る厳選採用を行うようになってきました。また、海外で培った異文化対応能力やバイタリティが企業でも役立つのではないかと期待されていました。外資系では、日本現地法人を軌道に乗せた企業から、英語も日本語もできて専門性のある人材として海外留学生の採用が増えました。多くの外資系金融機関が日本を中心にアジアに進出した時期とも重なり、特にIT技術、ファイナンス、会計、サイエンスなどの分野で、日系・外資系問わず採用数が増えた時期です。

そして直近の10年は、即戦力重視の時代です。それまでの日系企業では、英語ができる人材といえども「高い日本語能力」がまず前提とされていましたが、「グローバル化」の旗印のもと、専門性が高く即戦力になる人材であれば日本語能力も国籍も問わない企業が増えていきます。海外現地法人が直接人材を採用するケースも出てきました。また、日系、外資系を問わず、アジアを重視するようになってきています。日系企業であれば自社がビジネスを行う国で現地との橋渡しができる人材を求めていますし、外資系企業では日本を含むアジア全体を市場としてとらえ、リーダーとして活躍できる人材が求められています。

グローバル人材であるために英語は大きな武器になる

グローバルというキーワード以前に、企業が人材に求めるのは、仕事を遂行する基礎能力の高さです。具体的には、専門性が高く、吸収力があり、成長能力がある人です。それを前提とした上で「グローバル人材」とは、英語力は当然の前提として、海外とのやりとりや営業活動を行うグローバルステージでの職務に対して活躍が期待できる人だと言えるでしょう。それはすなわち、異文化を理解し、自分と相手が違うことを受け入れた上で、自分の考えをきちんと伝えて、目的目標を達成できる人だというのが私の考えです。そのために英語は大きな武器になると考えています。

海外留学生※／採用希望企業意識調査からみたグローバル人材 英語圏にとらわれず積極的にチャレンジする人材にチャンスあり

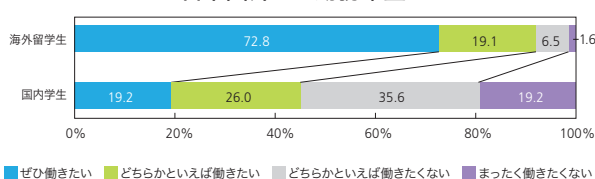
株式会社ディスコでは、企業の採用動向や学生の就職動向を毎年調査しています。
その最新レポートの中から、海外留学生の就職観と、企業との認識ギャップに関するデータを紹介します。

※海外の大学で学ぶ正規留学生や交換・派遣留学生（日本人）

留学生が海外勤務に期待するのはスキルアップ

日本国外（海外）での勤務について、海外留学生は「ぜひ働きたい」が72.8%、「どちらかといえば働きたい」が19.1%で、海外での勤務を希望する学生は9割を超えています。国内学生では海外勤務を希望する割合が半数未満に留まるのに比べると、その高さは顕著です。海外留学生が海外で働きたい理由で最も多いのは「よりスキルアップできるから」で、約6割（59.2%）に上ります。別の問いで「就職したい理由」として69.2%が「自分のスキルアップやキャリア形成のため」を挙げていたこととも合わせ、海外留学生は海外勤務をスキルアップにつながる経験と考えていることがうかがえます。

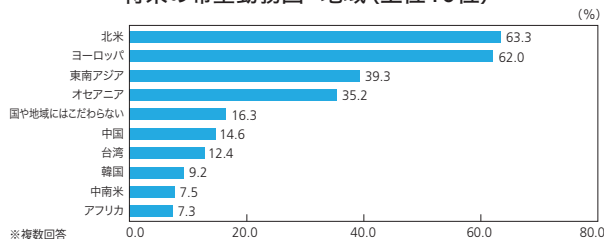
日本国外での勤務希望



米国・欧州が人気だが、 経済成長国での経験を積みたい留学生も

具体的に働いてみたい国や地域としては「北米」が最も多く（63.3%）、「ヨーロッパ」（62.0%）が僅差で続きます。一方で「東南アジア」も39.3%に上り、経済成長国で経験を積みたいと考える海外留学生も少なくないことがわかります。本文中でも触れた通り、企業は日本だけでなくアジア全体を市場としてとらえ、リーダーとして活躍できる即戦力を求めており、欧米での勤務にとらわれずチャレンジする意欲がある海外留学生にとってはチャンスが広がっていると言えます。

将来の希望勤務国・地域（上位10位）



企業が求めるのは「自ら道を切り開く人材」

企業が海外留学生に求める資質と、海外留学生が企業に評価して欲しいと思っているポイントを比較すると、コミュニケーション能力、語学力、異文化対応力、リーダーシップといったポイントについてはどちらも高いスコアとなりました。一方で、「バイタリティ」「発想の豊かさ」「ストレス耐性」は、企業の要求度が高いのに対して学生はあまり意識しておらず、ギャップが大きい結果となりました。

企業は海外留学生に対して、組織の中に円滑に溶け込むタイプの人材よりも、どんな環境にも対応して、自分自身の発想で道を切り開き成果を出せるタイプの人材を求めていると考えられます。

企業が海外留学生に求める資質と
海外留学生が企業に評価して欲しいこと

企業が海外留学生に求める資質		海外留学生が企業に評価してもらいたいこと	
1	バイタリティ 43.9%	1	コミュニケーション能力 48.7%
2	コミュニケーション能力 42.2%	2	異文化対応力 44.8%
3	語学力 38.5%	3	語学力 34.7%
4	異文化対応力 20.6%	4	協調性 31.0%
5	リーダーシップ 14.6%	5	信頼性 28.2%
6	発想の豊かさ 12.4%	6	リーダーシップ 26.2%
7	フットワークの良さ 10.4%	7	社交性 23.1%
8	ストレス耐性 10.2%	8	基礎学力 21.1%
9	熱意 10.2%	9	フットワークの良さ 19.5%
10	協調性 9.7%	10	熱意 18.9%
11	基礎学力 8.4%	11	バイタリティ 18.5%
12	社交性 6.5%	12	専門知識 17.9%
13	専門知識 6.2%	13	明るさ 17.0%
14	明るさ 4.5%	14	発想の豊かさ 16.2%
15	一般常識 4.5%	15	プレゼンテーション能力 13.0%
16	社会的モラル 4.5%	16	ストレス耐性 12.0%

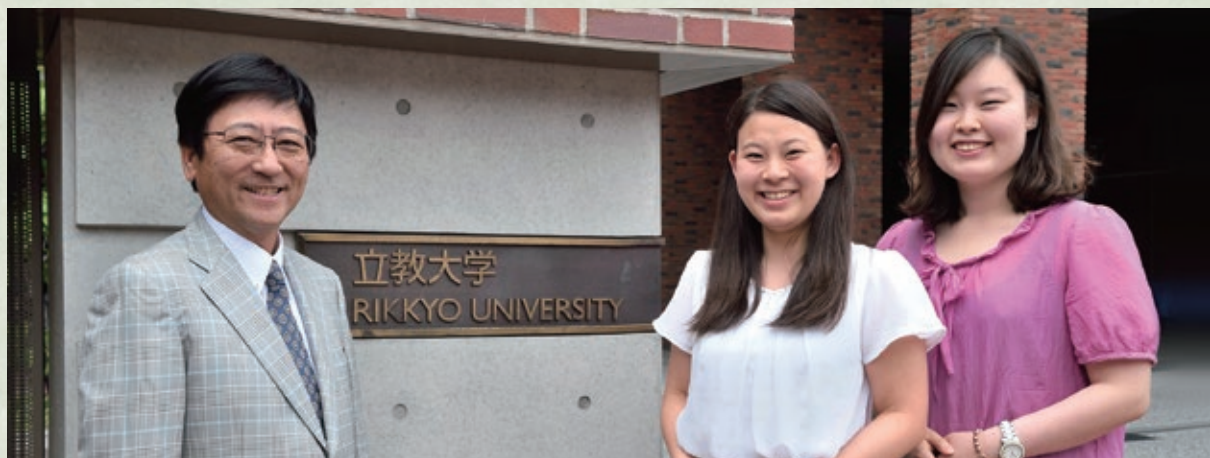
※複数回答

【データ出典】

「2018年度 海外留学生のキャリア意識と就職活動状況に関する調査結果」（2017年4月発行）
<http://www.disc.co.jp/uploads/2017/04/cfn201704.pdf>

「2017年卒・新卒採用に関する企業調査－中間調査」（2016年7月調査）
<http://www.disc.co.jp/uploads/2016/07/2016kigyousei-report7.pdf>

「専門性に立つグローバル教養人」育成を目指し、英語で学ぶ機会を提供



松本 茂 先生

立教大学 経営学部国際経営学科 教授
グローバル教育センター長

中井 衿花 さん

立教大学 経営学部国際経営学科 3年生
アメリカ大使館で現在インターンシップ中

安原 貴美 さん

立教大学 経営学部国際経営学科 4年生
アメリカ大使館でインターンシップ経験あり

文部科学省からスーパーグローバル大学の認定を受け、日本の大学の中でも最先端のグローバル人材育成教育プログラムを提供しているのが立教大学です。同大学が考えるグローバル人材像と、人材育成の取り組みについて、経営学部国際経営学科で学ぶ安原さんと中井さんを交えてグローバル教育センター長の松本茂先生にお話を伺いました。

重視するのはリーダーシップ

松本：本題に入る前に、なぜ立教大学経営学部国際経営学科を選んだのか、聞かせてもらえますか。

安原：私は韓国と日本のハーフで、なおかつアメリカンハイスクールに通っていました。3つの国のバックグラウンドを活かすために、日本で英語を使って専門的な学びができる場として、立教大学経営学部を選びました。経営学というのはどの分野にも通じる学問なので、幅広く学べるといったのです。

中井：私は高校在学中、1年間米国に留学しました。その経験から、将来は語学力を活かして活躍できる人になりたいと思いました。「英語を学ぶ」のではなく、「英語で学びたい」という気持ちが強く、さらに何か専門性を身につけたいと思って国際経営学科を選びました。

松本：二人とも模範的な回答ですね(笑)。立教大学が育成を目指すグローバル人材とは、一言でいえば「専門性に立つグローバル教養人」。

幅広い教養を身につけていて、かつ各学部の専門性を身につけている。その上でグローバルに活躍できる人材です。それは、多様な文化を受け入れ、自分自身の考えをしっかりと持ち、かついろいろな人と議論ができる人材です。

さらに、立教大学で重要視しているのは「リーダーシップ」です。権限や職位に伴うリーダーシップではなく、所属するグループに最大限の利得をもたらすために自分が何をすべきかということを率先垂範していくことです。

2006年の経営学部創設時に、「ビジネス・リーダーシップ・プログラム(BLP)」というコア・カリキュラムを整備しました。これが大変評価され、2013年からは全学部を対象とした「グローバル・リーダーシップ・プログラム(GLP)」として展開しています。このプログラムの最終段階では企業からいただいた課題に学生が取り組み、企業に対して課題解決の提案を英語で行います。

4年の在学期間中、一度は海外体験を

中井：国際経営学科では1年次に3週間の短期海外研修があります。協定校で最終的にはビジネスプレゼンテーションまで行う研修でしたが、他の学部学科でもそのような機会はあるのですか。

松本：スーパーグローバル大学として、「卒業までの4年間にすべての学生に海外体験をさせる」という方針があり、短期留学や海外研修なども含めて全員に一度は海外に行ってもらえるようにさまざまなプログラムを用意しています。また、海外協定校を増やすことにも注力しており、その一環として、英語で行われる専門の授業を増やしています。

とはいえ、米国の大学の受け入れの審査はTOEFLスコアで厳格に行われていますので、たとえ希望しても英語力がなくては交換留学に参加することはできません。高校時代から4技能の英語力を意識してもらう必要があります。ですから、TOEIC Testsをはじめとする英語の資格・検定試験を活用したグローバル方式入試を採用し、高校でも英語は4技能で授業をして欲しいというメッセージを立教大学から発しています。

安原：スーパーグローバル大学としての取り組みは他にどのようなものがあるのでしょうか。

松本: 今年からGLAP (Global Liberal Arts Program) というプログラムが始まりました。学生は学部の4年間に全寮制の海外の大学のリベラルアーツ専攻で留学することが必須で、そのために日本にいる間も全寮制の環境で授業はすべて英語で受けます。GLAPは学部時代に興味を持った分野をより深く学ぶため海外の大学院へ進学する人が多くいることを想定したプログラムです。また、経営学部にはMaster of

International Businessという、100%英語で授業を行う経営学の修士課程もありますので、そちらも選択肢の一つです。英語が好きな高校生は、今まで外国語学部英語学科や文学部英文学科に進学して英語を学ばれるケースが多くありましたが、「英語で何かを学ぶ」環境も一つの選択肢として成立するのではないのでしょうか。

企業はもっと大学を信頼して欲しい

中井: 英語で学んできた学生は、企業が求める「グローバル人材」の卵としてみてもらえるのでしょうか。

松本: 「英語力のある人が欲しい」という要望はとても増えていますし、TOEIC Testsのスコアで測れるような英語力に加えて、インターンシップに代表される「学生時代の体験」が重視されます。しかし、エントリーシートに書けることはとても表面的で、結局パーソナルにコンタクトしないとその人のことは分かりません。



最近、当学でもダイレクトに海外企業にコンタクトして現地採用を決めてくる学生が出てきています。日本企業も、柔軟な考え方で産学連携をもっと進めていければ、さらに良くなるのではないのでしょうか。もう少し大学を信頼して、どんな学生が欲しいのかを具体的に教えていただければ、と思うこともあります。

立教大学に限らず、大学のグローバル人材育成教育はここ4〜5年で良くなっています。英語で行っている大学のビジネスの授業に社員の方を派遣いただくことで、企業の方は英会話学校よりも実践的な英語が学べ、学生も緊張感をもって学習ができます。企業の研修や採用担当の方には、ぜひ、大学の授業を見に来ていただきたいと思います。

「グローバルに考える」ことはすべての人に必要

松本: 立教大学は、インターンシップも積極的に取り入れています。グローバル教育センターでは、すべての学部生を対象に1カ月程度の海外インターンシップを実施しています。その他にも、関西学院大学など7大学で実施している国連ユースボランティアなどがあります。これは発展途上国の現地オフィスで約5カ月働くインターンシップで、高い基準の選抜試験があります。

ところで、安原さん、中井さんはアメリカ大使館でのインターンシップを経験されていますね。経験を通して「グローバル人材」についてどのような考えを持つようになりましたか。

安原: 「固定観念をもたず、多様性を受け入れることができる人材」だと感じています。日本人としてのアイデンティティを持って世界に挑むことは大切ですが、日本の視点だけにとらわれていると新たな想像や発想が制限されてしまいます。どのような環境も受け入れつつ、自分なりにアウトプットできる人がグローバル人材だと思っています。

中井: 以前はグローバル人材を「高い語学力と異文化適応能力がある人」だと思っていたのですが、アメリカ大使館でのインターン経験を通して、少し考え方が変わりました。大使館でさまざまな部門の専門家が仕事をしている様子を間近で見ていて、語学力、リーダーシップに加えて、専門性、プロフェッショナルなスキルが必要だと思うようになりました。

松本: この時代、グローバル思考が必要なのは、一部の人たちだけではありません。私たちが食べているものはどこで作られ、どこから輸入されているのか、またこれからの日本で避けて通れない外国人労働者をどのように考えるのか、多様性の受容と他者への優しさが重要であることは、英語学習以前に誰もが意識しないといけません。また自分の考えを表現することも重要です。日本語だけではなく、世界共通言語である英語ともう一言語を使ってある程度のレベルの発信ができることで、自分の活躍できる場が飛躍的に広がります。そういう広がりを持ちたい、ネットワークを持ちたいという意識をもって、外国語を勉強してもらいたいですね。

ところで二人は、将来のキャリアパスは描けましたか。

中井: 今はまだ定まらないのですが、大使館ではアジア開発銀行の職員の方の働き方について聞く機会があり、国際機関で働くことに興味を持ち始めました。国連ユースボランティアにも現在応募していて、学生のうちにさまざまな経験をすることで、最前線で活躍できる人材になりたいと考えています。最近では大学院で国際開発を学びたいという気持ちも高まっています。

安原: 私はハーフとして生まれたので、国と国をつなげるようになりたいという漠然とした思いはありましたが、大使館でのインターン経験を通して、大使館の職員になればもちろんのこと、日本の企業で働くことになっても、国と国との関係に影響を与える仕事ができると感じました。将来はアメリカの大学院で学ぶことが夢なので、そのためのステップとして立教大学で5年一貫(5年間で学士と修士が一度に取れるコース)のプログラムに入って力をつけたいと考え、出願の準備をしています。大学院では企業の社会貢献を専門に学んでいきたいと考えています。

松本: 素晴らしいですね! ぜひ実現に向かって進んでいってください。



「異文化体験」をテーマに英語で自分の考えを伝える IIBCエッセイコンテスト



IIBCは、2009年から、高校生を対象にエッセイコンテストを開催しています。「私を変えた身近な異文化体験」をテーマに、2016年度(第8回)は国内・海外より本選は119校・172作品、奨励賞は28校・1,090作品のご応募をいただきました。写真は第8回IIBCエッセイコンテスト表彰式に参加した受賞者と審査員です。

コンテスト参加は英語力向上の大きなチャンス

501語から700語のエッセイで自分の体験と考えを伝える「IIBCエッセイコンテスト」は、TOEIC 30周年の記念事業として2009年に第1回が開催されました。以来、年々応募校は増えています。応募は学校単位となり、1校あたり2名までの「本選」と、20名以上の応募が条件となる「奨励賞」の区分があります。本選に応募したエッセイは構成・表現力・文法／語彙などの視点から審査され、最優秀賞、優秀賞、優良賞、そして特別賞5名が表彰されるほか、日米協会より本選応募作品の中から、国際理解や国際交流の観点で優れた作品3名に日米協会会長賞が贈られます。また、奨励賞を含むすべての応募作品は、ネイティブによる個別コメントのフィードバックを受けられます。

ほとんどの高校生にとって、500語以上の長い英作文を書く機会はありません。コンテスト参加者は、エッセイ作成を通じて自分の考えを伝えるための文章構成や表現を考え、先生の指導を受けて何度もブラッシュアップする過程で、自身の英語力も大きく向上させています。

「私を変えた身近な異文化体験」は、高校生の皆さんに、コミュニケーションのギャップを乗り越えて、異なる文化を持つ人々とわかり合うことの大切さを見つめ、考える機会を持っていただくことをねらいとしています。ここでいう「異文化」は、「自分と異なる価値観を持つ人」を指します。コミュニケーションギャップを乗り越えることは、グローバル人材に欠かせない「異文化理解力」を養うことにもなります。ぜひご参加ください。



頼もしいグローバル人材の卵達に出会えるコンテスト

審査員長 (一財)国際ビジネスコミュニケーション協会 専務理事 斎藤 真

エッセイコンテストに入賞された高校生の皆さんは、ひとりひとりがさまざまな経験をされて、高校生とは思えないレベルの問題意識をお持ちです。グローバル人材に欠かせない異文化理解力や決断力もあり、将来の日本を担う、頼もしい若者だと言ってよいでしょう。今後彼らが社会に出た時に、グローバル人材として活躍していただければと思います。本コンテストを通じて、IIBCが高校の英語教育の底上げに貢献することができればこれほど嬉しいことはありません。エッセイコンテストがさらに全国規模になって、優秀賞を目指す生徒が増えればと願っています。(談)

第8回IIBCエッセイコンテスト最優秀賞受賞者の島田采佳さんと特別賞受賞者の小宮山俊太郎さんに、執筆のきっかけとなった異文化体験や、エッセイ作成時の苦労について伺いました。

異文化を乗り越えた真の絆を築いて グローバルに活躍したい

最優秀賞

渋谷教育学園幕張高等学校卒業
(受賞時3年)

島田 采佳 さん
あやか

小学校1年生の時に父の仕事の関係で、アメリカのメリーランド州に転居しました。最初は苦労しましたが、現地校に通っていたので英語は自然と身につきました。さらにその後は2年間インドのニューデリーへ。いろいろな文化的背景を持つ友達と過ごしたことは貴重な体験だったと思います。

このコンテストに応募したきっかけは、高校1年生の時にNPOが主催する異文化交流プログラムに参加したこと。イスラエルとパレスチナから留学生を迎えて、一緒に日本の里山で過ごすというチャレンジングなもので、その時に会った友人がエッセイにも登場したラガードでした。彼女との交流を通じて、中東文化やイスラム教という宗教について初めて自分に引き付けて考える機会を得たことが、大きなきっかけです。彼女が身につけている顔周りを覆うスカーフ「ヒジャブ」についても、彼女と出会う前の文化的な背景を知らなかった私は、「夏なのに暑そう。かわいそう」と誤解していました。でも、ラガードに話を聞いてみると、誰に強要されているわけでもなく、彼女自身が巻きたいから巻いていたことがわかったのです。そんな異文化交流を通じた気づきを皆さんにも知ってほしかったし、自分でも感じたことをまとめておきたかったのです。結果的に賞までいただけて、とても実りが多い経験となりました。

さまざまな文化的背景を持つ人たちとのコミュニケーションを通して、それぞれの違いを乗り越えた人間としての絆を築ける人がグローバルに活躍できる人だと思っています。私はこれからアメリカの大学に留学しますが、いろいろな教養を身につけて、いつの日かさまざまな価値観の人と気持ちを共有できるグローバルリーダーに成長できたらと思っています。

相手に伝わる 長い文章を構成することが チャレンジでした

特別賞

栄光学園高等学校3年
(受賞時2年)

小宮山 俊太郎 さん

中学生の時から英語の授業は好きでした。英語の歌詞の解説とともに洋楽を聴く授業は、特に印象に残っています。中学2年生の時から、自分の身の回りで起きた面白かったことについて、英語で日記のように書きためることが習慣になりました。好きな本のことや、学校であったこと、「横浜ベイスターズが弱くて困る」なんて書いたこともありました。

そんな活動をしていたら、学校の先生から「何かコンテストに応募してみたら」と勧められて、自分で探して応募しました。題材は小学校の頃に福島から転校してきた友達との交流についてです。現在は別々の高校に通っていますが、彼のことは高校生になった今でも、福島のニュースを見るたびに思い出します。

エッセイ自体は1時間ほどで集中して書き上げ、先生に指導してもらいながら表現を磨いていきました。自分の気持ちを英語でどう伝えるかということよりも、内容をどう構成するかに悩みました。それまでは、自分が思ったことを思った順番に書いたことしかなかったもので、相手に伝わる長い文章を書くことが僕にとっては大きなチャレンジでした。

だから、受賞の連絡を受けた時には正直驚きました。英語のエッセイというと外国人との交流について書く人が多い中で、日本人の友達について書くというトピックそのものも良かったと褒めていただき嬉しかったです。東京オリンピックが開かれる2020年には大学生になっている予定なので、英語でボランティアに関わることができたら嬉しいと思っています。

2017年度 IIBCエッセイコンテスト

テーマ ～私を変えた身近な異文化体験～

応募資格	日本の国公私立高等学校、高等専門学校(1～3年)および中等教育学校(4～6年)に在学する生徒
使用言語	英語
応募作品	エッセイ 501～700語
応募期間	2017年6月1日(木)～9月6日(水) 17時まで

応募受付
開始!

IIBCエッセイコンテスト事務局主催 高校生対象・エッセイライティング ワークショップ

本コンテストへの参加を予定している高校生を主な対象に、英文エッセイの書き方を学ぶワークショップを開催します。このワークショップでは、日本語の『作文』とは異なるルールを持つ英文エッセイの書き方について学ぶことができます。エッセイコンテストはもちろん、将来進学や留学先で役立つ効果的な英文エッセイの書き方を学ぶことができます。

東京 2017年7月27日(木) 10:00～16:00(予定)
会場：(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会 会議室

大阪 2017年7月26日(水) 10:00～16:00(予定)
会場：(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会 <大阪> 会議室

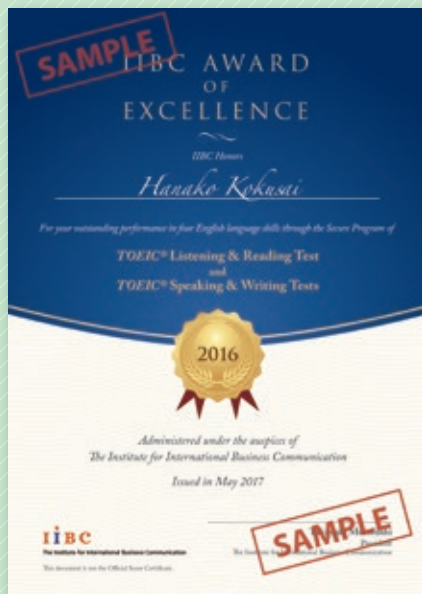
関連イベント

エッセイコンテスト、ワークショップの
詳細はIIBC公式サイト

> IIBCエッセイコンテストページ(<http://www.iibc-global.org/iibc/activity/essay.html>)をご覧ください。

TOEIC® Tests 4技能で一定のスコアに達した受験者を表彰する IIBC AWARD OF EXCELLENCEを新設

—— 第1回受賞者に聞く、英語との向き合い方とTOEIC® Testsの活用 ——



“IIBC AWARD OF EXCELLENCE”(以下、IIBC AWARD)は、英語の「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の力を測定するTOEIC Testsにおいて、一定以上のスコアに到達した受験者を表彰する制度です。英語4技能をバランス良く身につけ、ビジネスや日常のさまざまな場面で英語を使って活躍していただきたいという応援の気持ちを込めてIIBC AWARDを新設しました。

TOEIC® Listening & Reading Test	800点以上 (リスニング375点以上、リーディング425点以上)
TOEIC® Speaking & Writing Tests	スピーキング160点以上 ライティング170点以上

今回、第1回(2016年度受験者)のIIBC AWARD表彰者256名の中から7名の方に、仕事や日常生活で英語とどのように向き合っているのか、TOEIC Testsをどのように活用しているのかについてお話を聞きました。

IIBC AWARD OF EXCELLENCEについての詳細はIIBC 公式サイトをご覧ください。

http://www.iibc-global.org/toeic/pr/iibc_award_of_excellence.html

『TIME』誌の音読を続けて力をつけたい



高校生
燕昇司 健吾 さん
えんしょうじ

5歳から13歳までの8年間アメリカで生活していたので、英語にはもともと馴染みがありました。日本人が多い地域ではありましたが、現地校に通って異文化を背景に持つ同級生たちと過ごした時間は貴重な経験だったと思います。

TOEIC Testsを受けるようになったきっかけは、世界中で通用するテストだからです。高校生の自分にとって、TOEIC Testsで出題されるようなビジネスシーンの英語は難しいけれど、実際に使えると感じることも多いので、英語学習への意欲が湧いてきます。TOEIC L&Rは流れてくる英文を聞いたり、提示された英文を読んだりする、いわば「受け身」のテスト。しかしTOEIC S&Wのほうは、制限時間内に言いたいことを実際に話さなければならない、より実践的なものだと思います。考えている時間はないので、口から英語がスラスラ出てくるように訓練しなければスコアは上がりません。IIBC AWARDの受賞は、賞状をもらう機会なんて(これまでの)人生の中であまりないので、嬉しかったです。

帰国してからは、英語を話す機会が減ったことを補うために、『TIME』誌の記事を音読しています。英語の勉強になるのはもちろんですが、離れてしまったアメリカでの出来事や政治・経済の今が書かれているので、内容にも興味があります。その成果なのか、現地にいた時よりも帰国してからスコアのほうが高くなりました。将来は、英語力を活かした仕事に就きたいです。国際的に交流できる外交官の仕事に憧れています。

海外の方とコミュニケーションできる英語は楽しいもの

私にとって英語は、海外の方とコミュニケーションするための共通言語で、とても楽しいものです。語学を活かした仕事に就きたいと考え、英語を活かせる今の仕事を選びました。金融業界団体の国際部で、海外の関連団体の発行した最新の国際監督規制の文書を和訳したり、日本の事業者の意見を取りまとめて英語で海外団体に意見提出する業務を行っており、日常使うのは4技能のうち読み書きが中心です。

TOEIC Testsは、大学生の時に受けた後、今回は個人で受験しました。現在の私にとってのTOEIC Testsは、普段の仕事が当たり前になる英語を使う環境の中で、自分の英語力が維持できているかを確認する機会になっています。TOEIC S&Wの受験は初めてで、少し緊張しながらも楽しんでいて、あっという間に時間が経っていました。第一回の表彰をいただきましたが、TOEIC L&Rは自己最高点ではなかったし、TOEIC S&Wもまだまだ満点には足りなかったのに、私でいいのかなとまず驚きました。でも、受賞を主人と上司に報告したら、「すごいじゃない」と喜んでくれました。

今の仕事はとても気に入っています。もっと英語のスキルを高め、日本の業界と海外の業界や国際監督機関等との橋渡しとして役立ちたいです。実は主人が海外赴任中であり、私の出産後の育児休業期間は、主人の赴任先のベルギーに住むことを考えています。現地の方と毎日英語やオランダ語で会話する生活が、今から楽しみです。TOEIC S&Wも帰国後にもう一度受けたいですね。きっとスコアが上がると期待しています。



団体職員
白杵 里恵 さん

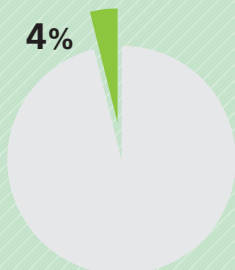
IIBC AWARD OF EXCELLENCEを新設

第1回受賞者に聞く、英語との向き合い方とTOEIC® Testsの活用

表彰対象のスコアを取得した受験者の割合

TOEIC® Listening & Reading Test
800点※以上の受験者

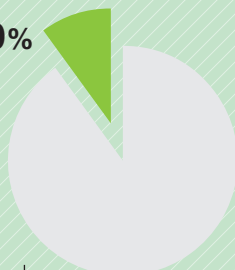
4%



※リスニング375点
リーディング425点以上の受験者

TOEIC® Speaking Test
160点以上の受験者

10%



TOEIC® Writing Test
170点以上の受験者

16%



同一試験日に受験したTOEIC S&Wスコアが対象

2016年度の公開テスト全受験者のスコアデータに基づき、(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会が作成

TOEIC® Testsのスコアが可能にした、憧れの会社への転職



メーカー勤務
本陣 一宏 さん

私は中学3年生の時に父の海外赴任でアメリカのノースカロライナ州に転校し、現地のハイスクールに4年間通っていました。当時はいきなり英語漬けの日々に放り込まれたので、辛かったのを覚えています。卒業間近のある日、仲が良かった友達が、冗談交じりに私のカタカナ英語のモノマネをしたことがありました。ボキャブラリーの少なさや発音についてコンプレックスを抱きながら自分なりに努力して、「やっとみんなに追いつけた」と思っていた矢先だったので、とてもショックを受けました。今でも忘れられないこの出来事は、「いつか見返してやる」という気持ちとともに、英語を勉強し続けるモチベーションの一つになっています。

TOEIC Testsを初めて受験したのは大学入試の時で、その後も年1回は英語力のベンチマークとして受け続けています。IIBC AWARDの受賞は、努力を評価され、何かを成し遂げた感じがして、とても嬉しく思っています。TOEIC S&Wも地下鉄の広告で見つけたことをきっかけに、これまでに2回受験しました。初めて受けた時は難しかったですが、試験勉強の後は英語を使う時言葉が出てきやすくなっているので、仕事で役立っていると感じます。

今は、機械部品メーカーで海外に製品を展開する業務に携わっていますが、TOEIC Testsのスコアを履歴書に書き添えて転職活動をしたところ、ずっと憧れていた楽器メーカーへの転職も叶いました。将来的には現職以上に英語を活用できるシーンがあると期待しています。

英語力をもっと伸ばして、編集者として良い本を世の中に送り出したい

出版社で翻訳書の編集をしています。仕事柄、普段から英語の原書を読んだり、著者及び関係者とメールでのやり取りをしたりと、日常的に英語を使う環境ではありますが、私が英語学習に本気で取り組み始めたのは、実はここ2年ほどのこと。著者が来日した時にアテンドする機会があったのですが思うように会話ができず、危機感を持ったのがきっかけでした。リーディングやリスニングは比較的得意ですが、スピーキングはどうしても苦手だったのです。それからすぐに英会話学校に通い始め、英会話学校の教材や海外雑誌の記事を毎日音読。さらに、担当した原書のオーディオブックを聞いたりして、自分なりの勉強法を続けてきました。この方法だと口が英語の発声に慣れるとともに、英語の独特な文法や言いまわしが自然と身につくので効果的だったと思います。

この2年間でTOEIC L&Rを5回以上、TOEIC S&Wを2回受験し、自分の英語力を客観的に測る指標として、学び続けるモチベーションを維持してきました。今回このような賞をいただきましたが、自分としてはまだまだ課題が多いと感じます。4技能をバランスよく伸ばしていく英語学習を継続して、良い本を作ることに繋がっていきたいと思っています。



出版社勤務
三村 純 さん

昼休みと夜の時間を使ってスピーキング力のブラッシュアップを継続中

本社がアメリカにある外資系投資会社に勤めているため、社内の公用語は英語です。社長をはじめ、世界各国にいる社員とのコミュニケーションで日常的に英語を使う環境にあります。現職に就く前には弁護士としてアメリカに2年間留学したこともあり、帰国時にはTOEIC L&Rで最高点をとることができました。英検1級にも合格していたので英語力にはそれなりに自信があったのですが、初めて受けたTOEIC S&Wの点数が自分が思っていたよりも低く、衝撃を受けたことを覚えています。

その後、今の会社に転職し、1日1回は英語での会議に出席したり、相手の表情が読み取れない電話会議に1人で臨んだりしなければならないシビアな環境に身を置いたことで、スピーキング力のブラッシュアップが必要だと痛感。昼休みに英会話学校へ通い、さらに毎日帰宅してから25分間のオンラインレッスンを続けることにしました。その結果、今ではTOEIC S&W両方平均で190点を超えられるようになりました。

私にとってTOEIC Testsは自分の英語力を測る指標です。特にTOEIC S&Wはスコアを上げるための勉強そのものがストレートに英語力アップにつながっていくと実感しました。これから日本語で行っているような本当の意味の深いコミュニケーションを英語でもとれるようになるという目標に向け、勉強を続けていきたいと思っています。



外資系投資会社勤務
野坂 卓司 さん

英語力を高めるために、いつまでも学ぶことはなくなる



航空会社関連企業勤務
川原 一志 さん

大学時代の海外旅行で、全く英語が通じないという悔しい経験から、英語学習を始めました。最初に就職した会社での7カ月程度の海外駐在などを経て、1988年に航空会社の国際線事業拡大の要員に応募し、転職しました。日常のメールのやりとりや文書の作成、海外との交渉など、33年間にわたって英語は日常的に使用しており、私の英語力は、ほぼ会社の仕事のおかげで養われたと思っています。

TOEIC Testsを初めて受験したのは2013年で、以来、TOEIC L&Rは合計4回、TOEIC S&Wは1回受験しています。今回表彰をいただいて、「なぜ私が？」と思いましたが、年の功で長い間仕事を通じて4技能をバランス良く鍛えていたのが、TOEIC Testsでは高得点につながったのではないかと思います。何事も賞をいただけるというのは嬉しく、励みになります。

3年前に旅行会社向けの航空予約システムを扱うグループ会社に出向し、1年半前に転籍し、今も英語を使う重要な仕事を任せていただけていますが、英語学習ではいまだに初めて見る単語が出てきます。どんな映画も字幕なしで楽しめ、スラング以外はネイティブのように話せるところまで英語力を高めたいというのが最終目標ですが、そこに到達するにはまだまだ学ぶことがたくさんありそうです。

英語の学習方法は学生時代から変わらず、NHKの英語講座を暗記するまで何度も聞き、テキストを音読することです。これからも学習を続け、自分のレベルを確認するために、TOEIC Testsを活用していきたいと思っています。

英語学習にゴールはない。これからも努力しつづけていきます

以前勤務していた物流会社では、何度も海外駐在を経験し、通算21年ほどアメリカにおりました。定年退職後、海外旅行者のガイドをする通訳案内士という資格を取り、現在はその仕事をしています。

通訳案内士は、大体1日8時間ほど個人やグループにつききりで各所を案内するのが仕事です。東京が主ですが、時には京都、奈良、高山、広島などまでガイドツアーをすることもあります。お客様は教養の高い方が多く、話題や質問は日本の文化やその土地の歴史、食べ物の特徴など幅広いものになるため、単に英語が話せるだけではお客様は満足してくれません。ガイドとして、日本では当たり前のことを英語で上手く説明できなかったりすると、もっと勉強しなければと身が引き締まる毎日です。

TOEIC Testsは英語力を確認する意味で今でも年に2、3回は受験するようにしています。英語の4技能はどれも欠けても不十分。すべてがつながっていると仕事の場でも実感します。仕事で表現につまずいた時には参考書で確認し、また実践に備える、の繰り返し。上級英単語を覚えたり、英字新聞を読んだり、テキストを音読したりと工夫しながら勉強を続けています。頭の中でフレーズを組み立てるだけでなく、反復して実際に口に出して音読すると、会話のなかで反射的にフレーズが出てくるようになるものです。私の人生は「英語に助けられた人生」。英語学習にゴールなんてありません。まだまだだと思いながら、学び続けていきます。



通訳案内士
服部 雅一 さん

『公式TOEIC® Listening & Reading トレーニング』 リスニング編・リーディング編

2冊同時
発売!

— テストを開発したETSが制作 —

2017年6月22日(木)に国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)は『公式TOEIC Listening & Reading トレーニング リスニング編』と『公式TOEIC Listening & Reading トレーニング リーディング編』を同時発売しました。

本番のテストと同じETS (Educational Testing Service) がすべての問題を制作。リスニング編は公式スピーカーによる音声を収録しています。

新形式問題に対応した教材で、「たくさんの公式問題を解きたい」との声にお応えし、リスニング編は372問、リーディング編は375問を収録しています。両編とも各パートの問題を数問ずつ組み合わせた20のセットで、バランスよく学習できる構成になっています。日々の英語学習にお役立ていただけます。



公式TOEIC® Listening & Reading トレーニング

リスニング編

定価: 本体 2,000円+税
B5判 / 216ページ / 音声CD 2枚付き
ISBN: 978-4-906033-51-5



公式TOEIC® Listening & Reading トレーニング

リーディング編

定価: 本体 2,000円+税
B5判 / 304ページ
ISBN: 978-4-906033-52-2

ご購入はお近くの書店、大学生協まで。

※書店によっては取り扱いのない場合もございます。

詳しい内容はIIBC公式サイトをご覧ください。

http://www.iibc-global.org/toEIC/support/prep/lr_tr_01.html

IIBCカレンダー

7月

▶ 26日・27日 IIBCエッセイコンテストライティングワークショップ開催(大阪・東京)
28日 TOEICセミナー (東京・ベルサール半蔵門)

8月

▶ 下旬 TOEIC ENGLISH CAFÉ in 大阪(予定)

10月

▶ TOEICセミナー(予定)

11月

▶ 11日 IIBCエッセイコンテスト表彰式

最新の情報はIIBC公式サイト(<http://www.iibc-global.org>)をご覧ください。

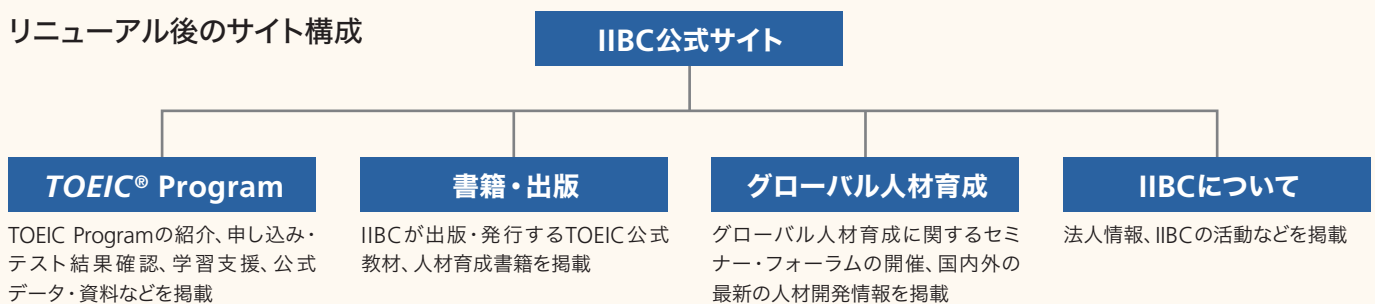
公式サイトをリニューアル

—各事業を一つのサイトにまとめ、新ドメイン iibc-global.org でスタート—

IIBCは2017年3月2日に公式サイトをリニューアルいたしました。今回のリニューアルでは、これまで個別にサイトを展開していたTOEIC事業やグローバル人材育成事業などの情報を一つのドメイン (<http://www.iibc-global.org>) に統合しました。

また、シンプルで軽快なデザインはスマホにも対応。同時にコンテンツの整理を行い、目的の情報により早くアクセスできるサイトに生まれ変わりました。

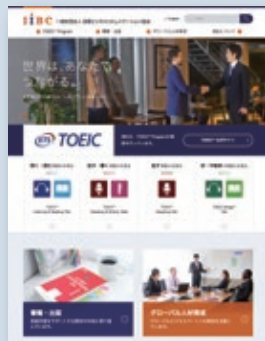
リニューアル後のサイト構成



IIBC公式サイトトップページ

<http://www.iibc-global.org>

TOEIC Program、書籍・教材事業、グローバル人材育成事業といったIIBCの主要な事業がひと目でわかる構成に。
知りたい情報に素早くアクセスできるようデザインを刷新しました。



TOEIC® Program

<http://www.iibc-global.org/toEIC.html>

各テストの内容から、公開テストスケジュール、受験申込の手順、結果確認まで、TOEIC受験者にとって必要な情報のすべてをわかりやすくご案内しています。



書籍・教材

<http://www.iibc-global.org/toEIC/support/prep.html>

大変好評をいただいている公式TOEIC Listening & Reading問題集シリーズをはじめ、英語学習者の皆様へのサポートの一環としてIIBCが制作・提供する学習教材をご案内しています。



グローバル人材育成事業

<http://www.iibc-global.org/ghrd.html>

グローバルな活躍を目指すすべての人のための情報サイト“Global Manager”やグローバル人材を育成する方向けのIIBCグローバル人材育成プロジェクトなど、IIBCが推進するグローバル人材育成関連の情報をご覧いただけます。



2016年度TOEIC® Program総受験者数は271万人

—TOEIC® Speaking & Writing Testsは2015年度比較で22%UP—

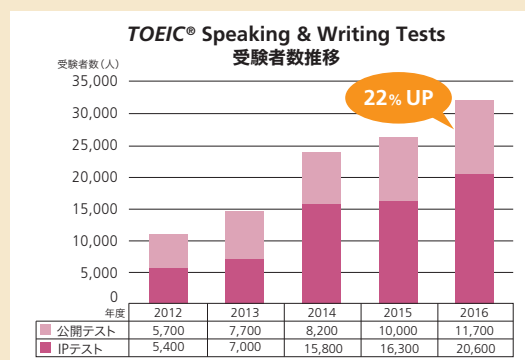
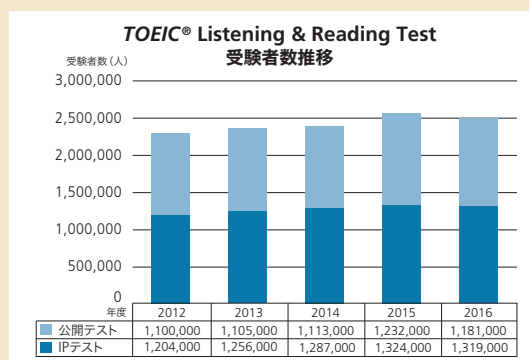
2017年4月6日、IIBCは2016年度のTOEIC Program受験者数について発表いたしました。

TOEIC Programの受験者数は合わせて約271万人となりました。また、企業・団体・学校などの採用団体数はTOEIC Program全体で3,600以上に上り、グローバル人材育成における英語力の指標として、TOEIC Programの活用が引き続き堅調に推移しています。

特に、TOEIC Speaking & Writing Testsの受験者数は、英語で話す・書く力を測るニーズの高まりもあり、3万2,300人と2015年と比較して22%増加。同テストが開始した2006年から連続で受験者数は増加しています。

TOEIC Listening & Reading Testは、2016年5月に公開テストにおいて出題形式の一部変更がありましたが、ほぼ例年通りの受験者数となりました。

TOEIC Tests 受験者数の推移 (2012年～2016年 IIBC調べ)



公開テスト・・・当協会の管理下で実施し、個人が直接申し込みをする受験制度

団体特別受験制度 (IPテスト)・・・企業・大学などの団体が、所属社員・学生を対象に随時実施する受験制度

2016年のTOEIC Bridge Testの受験者数は18万2,000人

公開テストスケジュール

TOEIC® Listening & Reading Test



回数	試験日	申込期間※1	結果発送予定日
第223回	2017年 9月 10日 (日)	2017年 6月 16日 (金) ～ 2017年 8月 1日 (火)	2017年10月10日 (火)
第224回	2017年10月22日 (日)	2017年 8月 4日 (金) ～ 2017年 9月 5日 (火)	2017年11月21日 (火)
第225回	2017年11月19日 (日)	2017年 9月 8日 (金) ～ 2017年10月10日 (火)	2017年12月19日 (火)
第226回	2017年12月10日 (日)	2017年10月13日 (金) ～ 2017年10月31日 (火)	2018年 1月 9日 (火)

TOEIC® Speaking & Writing Tests

TOEIC® Speaking Test



試験日	申込期間※2	結果発送予定日
2017年 8月 6日 (日)	2017年 6月 23日 (金) ～ 2017年 7月 21日 (金)	2017年 8月 30日 (水)
2017年 9月 3日 (日)	2017年 7月 21日 (金) ～ 2017年 8月 18日 (金)	2017年 9月 28日 (木)
2017年10月 1日 (日)	2017年 8月 18日 (金) ～ 2017年 9月 15日 (金)	2017年10月25日 (水)
2017年11月 5日 (日)	2017年 9月 15日 (金) ～ 2017年10月20日 (金)	2017年11月30日 (木)
2017年12月 3日 (日)	2017年10月20日 (金) ～ 2017年11月17日 (金)	2017年12月27日 (水)

TOEIC Bridge® Test



回数	試験日	申込期間※2	結果発送予定日
第64回	2017年 9月 3日 (日)	2017年 5月 15日 (月) ～ 2017年 8月 3日 (木)	2017年10月 6日 (金)
第65回	2017年11月 5日 (日)	2017年 8月 14日 (月) ～ 2017年10月 5日 (木)	2017年12月 8日 (金)

※上記は個人でお申し込みいただく際の申込期間です。団体一括試験申込期間 (TOEIC Speaking Testを除く) は公式サイトでご確認ください。

また、公開テストスケジュールは変更されることがございますので、最新の情報は公式サイトでご確認ください。

(※1) インターネットでの申込期間です。申込開始および締切時間、コンビニ端末申込については公式サイトでご確認ください。

(※2) インターネットでの申込期間です。申込開始および締切時間は公式サイトでご確認ください。



一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

IIBC 公式サイト <http://www.iibc-global.org>

【お問い合わせ】

東京	東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル Tel. 03-5521-5901
名古屋事業所	愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル Tel. 052-220-0282
大阪事業所	大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル Tel. 06-6258-0222

【報道関係お問い合わせ】

広報室	東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル Tel. 03-3581-4761
-----	---